

～新渡戸記念の～

『言葉の院外処方箋』

新渡戸稲造記念センター 長 樋野興夫

第6回「「病床にも知恵あり」～ 一日の精神的食料 ～」

1915年 新渡戸稲造 著『一日一言』（実業之日本社）が、出版されている。「序文」には、「その日その日の教訓になる格言を聞いて、一日の精神的食料に 供することは 誰人にも望ましい事であって、——。我輩も数年以前より、自分の助けとなった格言を集めて 世にわかちたいと 望んでいたが、暇なきため実行しかねていた。しかるに、この秋、負傷して——、急に本書を綴ることを決心した。」と記述している。新渡戸稲造（1862-1933）は、1913年 岩手県でバス事故に遭い、1年間（365日）の小文365編を選び 構想が生まれた とのことである。まさに「病床にも知恵あり」である。

私は、2019年に「新渡戸稲造記念センター 長」に招かれた。2020年「新渡戸稲造 国際連盟事務次長就任100周年」、新渡戸稲造 著『武士道』出版120周年記念が、実現できれば最高である。思えば、私は、癌研時代、今は亡き 原田明夫 検事総長と、2000年『新渡戸稲造 武士道100周年記念シンポ』、『新渡戸稲造生誕140年』（2002年）、『新渡戸稲造没後70年』（2003年）を、企画する機会が与えられた。順天堂大学に就任して、2004年に、国連大学で『新渡戸稲造 5000円札さようならシンポ』を開催した。また、2013年の『新渡戸稲造 没80周年・新島襄（1843～1890）生誕170周年シンポジウム ～ 今、懸け橋をつくる。——国を超えて、時を超えて！ ～』（添付）が、走馬灯のように駆け巡ってくる。



写真提供 京都大学記念館



写真提供 同志社大学

今、懸け橋をつくる。——国を越えて、時を越えて!

今この国にもっとも大事なことはなにか。
 真の意味の国際交流を実現し、またその先駆者であろうとしつづけた
 二人の先人の生き方と考え方を振り返りながら、参加者の皆様と共有したいと思います。
 日本だけのことにとらわれず、大きな視点で、
 「今、懸け橋をつくろうではありませんか!」

第10回 お茶の水アカデミアシンポジウム

「新渡戸稲造没80周年記念・新島襄生誕170周年記念シンポジウム」 — 今、懸け橋をつくる。— 国を越えて、時を越えて! —

- 総合司会 鳥田 義也 (放射線医学総合研究所)

- 講演 司会：鳥田 義也 (放射線医学総合研究所)
 - ↑ ↓ 「京都時代の新渡戸稲造」 藤井 茂 (新渡戸基金事務局長)
 - ↑ ↓ 「日本人の精神的支え」 曾我 文宣 (元放射線医学総合研究所)
 - ↑ ↓ 「新島襄 — クラーク — 内村 鑑三 — 新渡戸 稲造の歴史の流れ」 随野 興夫 (順天堂大学医学部教授)

- パネルディスカッション 司会：鳥田 義也 (放射線医学総合研究所)
 - ↑ ↓ 「国を越えて、時を越えて」
 パネラー：藤井 茂 (新渡戸基金事務局長)、曾我 文宣 (元放射線医学総合研究所)、
 渡辺 その子 (文部科学省科学技術・学術政策研究所 総括上席研究員、元ユネスコ)、
 斉藤 卓也 (文部科学省、21世紀の知的協力委員会事務局長)、
 奥村 二郎 (道徳大学医学部教授)

- 総括 随野 興夫 (21世紀の知的協力委員会議長) 「温故創新」

12/6 (金)

時間：18:30～20:45
 会場：中央大学
 駿河台記念館
 (285号室)

主催：21世紀の知的協力委員会
 共催：御茶ノ水アカデミア研究会
 後援：文芸春秋 (予定)
 協賛：株式会社アロケイティクス株式会社
 株式会社「代田テクノル」
 連絡先：随野 興夫
 (FAX 043-206-4134)